

村研 研究 通信

臨時二エース

東京都世田谷区下馬町3丁目
東京学芸大学
社会学研究室内
村落社会学研究会
事務局
1961年10月20日

本年度大会につきまして、在京大委員会の討議の結果、次のように決定いたしました。

◇日時・場所については次のごとくに予定する。

日時 昭和三十六年十一月一七一十九日

場所 静岡県御殿場市宇畑「国立中央青年の家」

泊り込みの場所は東京都内では求めることが困難であるばかりか、都内在住会員が夜帰宅してしまふのでは無意味であろうというところから、御殿場にきまつた。御殿場では場所柄からいって会員外の参加者を期待することはできないが、村研

も発定以来八年を経過し、最近いさか中だるみの感もあるので、こころですこし会の今後のあり方について、ゆっくり検討しめう方がよいのではないかということになった。

ただし、青年の家は、青年研修施設で、設備は非常に整備されているけれども、その目的上、例年の泊り込み大会のような親睦会的气氛（「飲む会」）は望めない（会場、宿泊施設、食堂、風呂等の設備はととのっている）。

◇課題は前回の通信に示した線ですすめる。ただし会員の希望（アンケート）や報告申し込みの内容からみて、現時点に問題が集中することになりうが、それもいたしかたないのではないか。

現在まで希望の出ている報告は次のごとくである。

1. 最近の農民組織 —— 東北大 塚本・細谷
2. 農家共同化 —— 豊 大 小池

3 漁夫労組 —— 教育大 中野・柿崎
4 豊紡織織 —— 東大ほか 松原・蓮見

園田

その後次の申し込みがあった。

5 東樹地帯の農氏組織

稲島大 菅野

東化学院 青森

の各会員からであるが、(5)の申し込みがあった関係で、(4)は取りやめてよいとの申し出があった。

◇ 日程は、一月一八・九日の両日であるが、

前日夕刻までに全員現地到着とし、青年の家では一七時までに必ず入寮するようになっている。

オ一日目は朝から四本の報告と質疑を行い、夜總會、懇親会を向き、

オ二日目は終日共同討議をし、夕刻解散することとした。

以上でございますが、正確なプログラムは後程

の手元にとどくようにしたいと思えます。しかし会場とくに宿泊の申し込みの関係がございまして早のに出欠まじらなければなりませんので、折返し御返事をお願い致します。

場所並びびに交通の便について、あらかじめの御予定もございましょうから、次に記しておきます。